

- *イエス・キリストの降誕。2千年前、イスラエルのベツレヘムという小さな村で聖霊によって身ごもり、おとめマリヤの胎から生まれた。生まれることは数百年前から預言されていた神の御子である。その幼少時代の記述は少ないが、他の子供と同じように、ナザレという町で家族とともに育ち、知恵も体も徐々に成長していった。
- *33歳の時、外に出て使命を果たすべく働かれた。「それから、イエスは、すべての町や村を巡って、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病気、あらゆるわずらいをいやされた。」(マタイ9:35~36) イエスの働きを中心は「神の国」(御国、天国、永遠のいのちなども同じ)を伝えることであつた。神の国とは神が愛をもって支配される場所。イエスは神の国をことばであらわすだけでなく、行いで示された。完成された神の国はイエスがもう一度来られた時に見ることができるのだが、地上でもその一部を見ることができる。イエスが示された具体的な行い3つ。
- *多くの病人を癒された。マタイの8章、9章は全編いやしの記事であるといつてよい。完全な神の国には病気も、悲しみや苦しみも全くないが、神の国の王であるイエスはその全能の力で、多くのいやしのわざをされて神の国を人々に見せられた。
- *貧しい人、罪人とされている人とともに過ごされた。「イエスが家で食事の席に着いておられるとき、見よ、取税人や罪人が大ぜい来て、イエスやその弟子たちといっしょに食卓に着いていた。すると、これを見たパリサイ人たちが、イエスの弟子たちに言った。『なぜ、あなたがたの先生は、取税人や罪人と いっしょに食事をするのですか。』イエスはこれを聞いて言われた。「医者が必要とするのは丈夫な者ではなく、病人です。」(マタイ9:10~12)
- *まことの愛を示された。「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合うこと、これがわたしの戒めです。」(ヨハネ15:12) 神の国ではすべての人が互いに愛し合い、平和のうちに生きているところである。イエスは、その究極の愛を十字架の死でもって示された。赦しの愛、犠牲の愛である。神の国は素晴らしいところである(=福音)。地上でその神の国に一番近いところは教会である。イエス・キリストの語られたこと、なされたことをしっかりと心にとめ、彼に倣う生活をともに送りたい。